



毎日新聞がおもしろい

皮肉統計標語の大喜利作品記事

2月13日、厚生労働省の毎月勤労統計など一連の統計不正問題を毎日新聞が「アクセス」と言うコーナーで掲載しています。よれば、総務省が今月1日に告知を出したが、そこで今年10月18日の「統計の日」にむけての標語を募集。その経過を記事にしています。(署名・江畑佳明さん)

「統計の日に向けて、国民に統計の重要性を知らしめる標語を募集する、と言うのだ。間の悪いことに告知した1日、総務省の小売物価統計でも不正が発覚した。」とのツカミ文に引き込まれる。見出しは「皮肉な統計標語山盛り」とあり、『ネット上では統計のいいかげんさを皮肉る「標語」があふれ「大喜利」状態となっている。』とある。

大喜利作品は

その「大喜利作品」が囲み記事でカラー印刷。記事よりもはじめに作品紹介に目が行く。紹介作品は「ごまかせ統計、疑惑の指針。」「不景気も統計一つで好景気」「統計で日本は世界の笑い者」「合わぬなら作ってしまえ偽統計」「『統計』はいまや出世の一里塚」「統計の耐えられない軽さ」「この数字 君が良いねと言ったから偽装であっても統計記念日」と、文学作品？の紹介がされています。

この作品の上に、近年の採用された標語が掲載されています。2013年度「統計でみんなで見よう 時代の動き」14年度「統計は 次代を読み解く パートナー」15年度「統計を 今に活かして 未来につなぐ」16年度「統計の 確かな情報 大きな安心」17年度「統計が 教えてくれる 地域力」18年度「活かせ統計、未来の指針。」

これらの「採用された作品」が、現在の政府への痛烈な皮肉となっています。国民みんなで、時代の動きは見れているか？ 政府は、パートナーたりえているか？ 現在を理解し、未来を展望出来るか？ 大きな安心も、未来の指針も、政府は示しているのか？

かつて「100年安心 年金」のスローガンで戦われた選挙もあったようだが。今、100年安心と思っている国民は何人いるのでしょうか？ あの、ポスターは何処へ行ってしまったのでしょうか・・・？ 19年度の統計標語の〆切は3月31日 とある。

連絡先 市議会議員 松原のりかず 岐阜市沖ノ橋町1-21 でんわ 253-2500

議 会 軽 視 ？

中日新聞2月16日記事、岐阜を動かす柴橋市政1年 見出し「EV設置中止で混乱」の中で『反対派の議員は一度可決された工事契約の議案がほごにされたとして「議会軽視も甚だしい」と憤った。』と報道されています。さて、情勢と条件に変化が生まれ、議案を出し直して、議会での質疑をお願いしているわけで、これは「議会を尊重しているから」と、話題の議員には理解できないのでしょうか？

南方でしたか、うちは シベリア抑留でした 戦没者追悼式

15日の戦没者追悼式で隣席のA議員にお聞きした。A議員のご親戚は南方で苦難に会われたと。松原のりかずの家は、兄の父が満州で捕虜になりシベリア抑留ハバロフスクの収容所で死亡。母が戦後、松原のりかずの父と再婚した。この父もシベリア抑留でバイカル湖のあたりまで行っている。話しをしながら大脇元参議員が岐阜空襲の本を書くきっかけが『改憲論を声高に言う議員が「家族に戦争の話しを聞いた事が無い」と言った事』と講演されたことを思い出した。

「岐阜過労死をなくす会（仮称）」結成集会

2019年3月16日（土）14：30～16：30

ハートフルスクエアG岐阜 大研修室

会の活動内容 ①過労死等防止の啓発活動 ②過労死遺族の支援・精神的ケア
③自治体を中心とした労働時間・ハラスメント等の実態調査
正会員会費（予定）年1口 1000円

記念講演 小倉 謙 さん 事務局 080-4940-1685



松原のりかず
☎058-253-2500